令和６年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　河内　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

(1)　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
(2)　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
(3)　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

(1)　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2)　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の６年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を下回っている。「情報の扱い方に関する事項」については全国平均を上回っていたが「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての正答率が全国平均を大きく下回った。聞かれたことに対し、自分で考えて短く解答するいわゆる「短答式」の問題に課題がある。
	よくできた問題	目的や意図を読み取り、内容に適切なものを選んだり、情報と情報を関係付けたり、語句と語句の関係を理解して使う問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	漢字や文法など、知識を必要とする問題の正答率が特に低かった。

算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国を下回っている。特に「図形」の領域の平均正答率が、全国平均と比べて差が大きかった。また、正答率の分布から、個人差が大きいと言える。
	よくできた問題	計算に関して、成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述するような、データを活用した問題の平均正答率が、低かった。

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・「早寝・早起き・朝ごはん」に関する問いへの肯定的な回答が１００％であった。基本的な生活習慣の定着が見られる。 ・「学校に行くのは楽しいか」「先生はあなたの良いところを認めてくれているか」「自分には良いところがあると思うか」という問いに対し、肯定的な回答が１００％であった。学校や担任に対する信頼関係や安心感がうかがえる。 ・「人が困っているときは、進んで助けるか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」に対しての肯定的な回答は１００％だった。規範意識の定着や他者を思いやる心の醸成がうかがえる。 ・「新聞を読んでいますか」という問いに対しての肯定的な回答が低かった。不読率は低くないため、新聞に接する機会が減っていると思われる。 ・家庭での学習時間が全体的に低かった。現在は自主学習ノートへの取組を中心に全体的な底上げに向けて進めている。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

○主題研究を複式学級における効果的な授業展開の在り方と位置付け、ICTの活用などを中心にわかりやすい授業づくりを進める。
○パワーアップタイムの中で、読み聞かせやコグトレ、ドリルアプリの活用を位置付け、基礎基本の学力の定着を図る。

②　家庭生活習慣等に関する取組

○学年×10分＋10分を家庭学習の目安として、宿題を出すとともに、「自主学習ノート」を活用し、自発的な学習への取り組みを進める。
○学校に届く子ども新聞をきっかけに新聞に興味をもたせ、新聞に触れる機会を増やしていく。